

旧熊谷堤と万平公園記念碑群

桜木公民館長 細川 末廣

桜木公民館は熊谷駅南の、曙、万平、桜木町地区に位置しています。そこには、荒川の流れて沿って熊谷堤と呼ばれる桜堤があります。

歴史を遡れば、16世紀後半、この熊谷堤の北に地域を横断して「北条堤」と呼ばれた旧熊谷堤が荒川の洪水から町を守るために作られ、春には桜の名所として戦後まで存在していました。戦後の区画整理によりこの桜堤は崩され、松岩寺から石上寺、上熊谷駅、万平公園から久下まで続いた桜堤は幻になり、現在、石上寺と万平公園にその断面を残すのみとなっています。

万平公園は、熊谷駅南口から東へ三百メートル、ほぼ地域の中心に在ります。旧熊谷堤の跡地を公園化し竹井澹如の幼少名をとり万平公園と呼んでいます。地区では、ここを地域コミュニティのシンボル空間として、桜祭りや防災訓練、公園整備等の事業を行っています。今年二月、地域の有志により万平公園史跡研究会が設立され、前後して、公園の入り口に教育委員会と桜木小学校区連絡会により、公園内六ヶ所の記念碑群の説明板が設置されました。これを紹介致します。

「桜植功労碑」

旧熊谷堤の桜の植樹や堤の保存に対する功績を顕彰した碑。(昭和九年設置)

「熊谷堤栽桜碑」

明治の終わりから大正にかけて桜の植栽を実施した「熊谷保勝会」の活動を記念、顕彰した碑。(大正三年建立)

「竹井澹如翁碑」

熊谷宿の本陣の当主、竹井澹如は幕末から明治期の熊谷の発展に尽力した人物で、熊谷堤の西側に幼名ちなんだ突堤の「万平出し」を築いた。竹井氏の功績を顕彰する碑。(昭和七年十一月建立)

「繭霊塔」

熊谷地域は養蚕が盛んな地域で、近隣に様々な絹産業遺産も存在していた。繭霊塔は生糸生産のために使われた多くの繭に対する慰霊の祈念碑。(昭和三十六年設置)

「名勝熊谷堤碑」

旧熊谷堤は昭和二年に国の史跡名勝特別記念物に指定された。この名勝を今に標す碑。

「内務省測量基準」

昭和初期の荒川改修の際に設置された内務省の「測量の基準」石標。

以上です。

是非一度は訪ねてください。

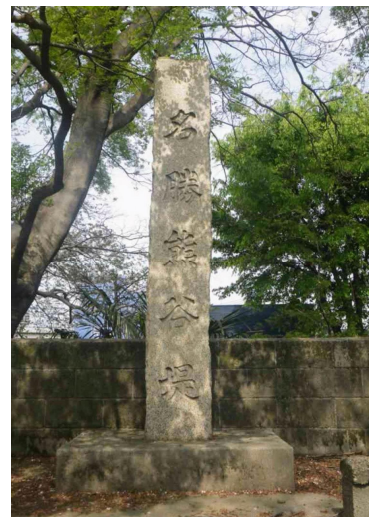
(熊谷市公連だより 第21号 平成28年より)



桜植功劳碑



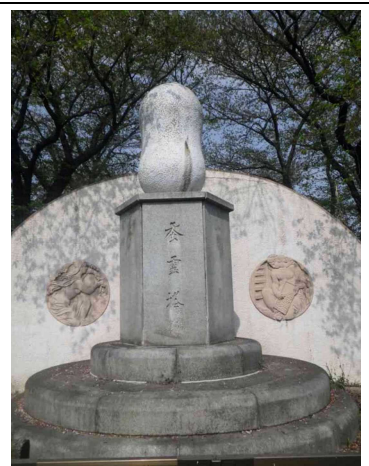
熊谷堤栽桜碑



名勝熊谷堤碑



竹井澹如翁碑



繭霊塔